



地域・駅・新幹線ニュースター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2021年11月10日(水)
第27号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JIR 東日本新青森駅
〔青森学術文化振興財団助成事業〕



午前 10 時から新青森駅東口で出発式を行い、工藤富士雄駅長が「北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を受けて、おもてなし隊の皆さんに計画していただきました。元気で歩きましょう」とあいさつしました。



一行は 5 グループに分かれ、駅東側にある石江神明宮を皮切りに、石江地区の笹森池、三内地区の沢部八幡宮、世界遺産・三内丸山遺跡、そして版画家・棟方志功らの墓がある三内霊園を回りました。

2 年の太田美慧さんは石江神明宮で、江戸時代の紀行家・菅江真澄が石碑のスケッチを残したこと、春には桜が美しいことなどを説明し、参加した人々は静かな境内で、色付いた木々の葉に見入っていました。

神奈川県伊勢原市から参加した中山信行さんは「青森は以前も来たことがあります。静かで良いところですね」と話していました。

当日は明け方、強い風雨に見舞われて開催が危ぶまれましたが、出発時には晴れ上がり、生徒たちは少し



緊張した面持ちながら、ガイドを無事に果たしました。青森おもてなし隊副隊長の佐々木千束さん（2 年）は「準備期間が短く不安が大きかったけれど、参加してくれた方々がとても優しく、気が楽になりました。何とか案内が終わりほっとしました」と話していました。

青森北高校 今別校舎

「荒馬」最後の舞 青西高生も参加

津軽半島の北端・今別町にある青森北高校今別校舎の生徒たちが 10 月 16 日、文化祭に合わせて、地元の伝統芸能「荒馬」を町内で披露しました。同校は 2022 年 3 月の閉校が決まっております、生徒たちにとっては最



後の運行となりました。同町出身で今別荒馬保存会のメンバー・笹谷幹太さん（青森西高校 3 年）も参加し、幼なじみの仲間と舞を繰り広げました＝写真右上。

「荒馬」は馬役の男性と手綱取りの女性がペアで踊り、青森県無形民俗文化財に指定されています。同校の秋の恒例行事でしたが、2020 年は新型コロナウイルス感染症のため、町内運行が中止されました。

この日の舞には、同校生徒に加え、指導に当たってきた八幡町内会や今別荒馬保存会のメンバーが参加しました。沿道で多くの町民が見守り、何人もの人が名残惜しそうに、太鼓に合わせて一緒に舞う姿が見られました。今別町の調査を続けている青森大学・櫛引ゼミの学生たちが、運行の様子取材しました。

笹谷さんは「1 年に 1 度は舞わないと気が済まない。とにかく荒馬が好き」と顔をほころばせていました。



今別小学校児童

オンライン交流スタート

青森大学・櫛引ゼミ

青森大学社会学部・櫛引ゼミの学生らが 10 月 12 日、今別町立今別小学校（木村佳嗣校長）の 6 年生 5 人と、初のオンライン交流会を開きました。

青森大学生のチームが 2020 年、「JR 津軽線プロジェクト」と題し、沿線の外ヶ浜町・今別町の振興と津軽線の利用促進を模索する活動を開始しました。そのメンバーのうち、櫛引ゼミに所属する学生らが 9 月、今別町を訪れた際、今別小学校に立ち寄り成田和弘教頭と懇談し、企画が持ち上がりました。

交流会は鈴木悠太教諭の司会で進行し、今別小学校の子どもたちは「今別町に来たことがありますか？」などと質問、学生らが「行ったことがあります。自然が豊かな今別町が大好きです」と答えると、歓声を上

げていました。

学生からは「子どもと防災との関わりを研究しているのですが、どんな知識がありますか？」、「どんな遊びをしていますか？」と質問があり、災害について一緒に学んだり、将棋の楽しみ方覚えてはどうか、と



いった提案が出ました。

今別小学校は IT 教育やネット活用に関心を入れており、櫛引ゼミと今後も交流を深めていく方針です。



三内丸山遺跡

溝状遺構 幅7m、長さ70m超？

国の特別史跡・三内丸山遺跡の本年度の発掘調査で、遺跡北端部で発見されていた2つの溝状遺構(第315号、第316号)の詳細が分かってきました。



ともに縄文中期末葉以前に構築、使用されており、第316号溝状遺構は幅7m、深さが最1.5m、長さは70m以上に及ぶ可能性があります。第315号遺構は、幅は3m、深さは最大50cmです。長さは15mまでは確認できましたが、さらに延びているかどうかは、江戸時代以降に土が削られているため痕跡が残っていません。

溝状遺構は、遺跡がある台地の縁の近くに沿い、東側ほど深く、東端は台地を刻む沢に接しています。注目されるのは、溝状遺構を両側から挟む格好で、柱を立てたとみられる穴の列が複数、見つかったことです。

遺構の底には、周囲から流れ込んだらしい砂状の土が堆積していて、縄文時代中期ごろとみられる土の上

に、縄文時代中期末ごろから平安時代の土が堆積していることも分かりました。



調査を担当する三内丸山遺跡センターの加藤渉・文化財保護主査は「道の跡や水を流す施設などさまざまな可能性を検討しているが、どんな遺構かはさらに検討する必要があります」と話し、究明が待たれます。※写真左は長い方の溝状遺構。画面を左から右へ横切る形で、遺構が確認されている。写真上は柱穴の跡。中央と右端に、それぞれ縦に柱穴が並んでいる。

青森県立美術館

豊島重之の直下型演劇、カルトポスタル

震災10年「あかし」展

青森県立美術館で、豊島重之(八戸市出身)ら4人のアーティストの作品を取り上げた企画展「東日本大震災10周年 あかし testaments」が、2022年1月23日まで開かれています＝QRコード(公式サイト)。

豊島の作品は、鉄骨で組んだ「直下型演劇」の舞台が丸ごと再現されています。観客は2階からガラスの床を通して、1階で演じられるパフォーマンスを見下ろす仕掛けです＝写真右(特別に許可を得て撮影。2階は見学不可)。2001年のアメリカ同時多発テロなどに触発されて創作・上演され、当時の映像が壁面に流れています。



市民アートサポート「イカノフ」のメ

ンバーらと制作した107枚の作品群「カルトポスタル」(絵ががき)は、表側に写真の作品やコラージュ、裏側にコラムなどのテキストが記されています＝写真下。

豊島が主宰した劇団「モレキュラシアター」のメンバーとしても活動を共にした、妻の高沢利栄さんは「彼は『愉快、ワクワク、幸せ』がどんな時にもどこかにある人でした。発見する人、自分を忘れて走ってい



る人。チャーマンングな人。作品は人の『行為』が織り込まれたものばかりなので、展示されることで『動かないもの』と見られないようにしたい」と話しています。

▼新青森駅▶ ARXSNS フォトラリー ▼三内丸山遺跡▶

ねぶた・土偶フレイムで撮影、投稿

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録を記念し「三内丸山遺跡&新青森駅 ARXSNS でつながるフォトラリー」が11月30日まで開かれています。

AR(拡張現実)の技術とSNSを組み合わせて、新青森駅2階の南北自由通路と、三内丸山遺跡センター縄文時遊館の売店付近に掲示されているポスターの二次元コードを読み取り、表示されるオリジナルフォトフレイムを使って写真を撮影・投稿するイベントです。新青森駅では、竹浪比呂央さんが2021年度に制作

したJR東日本のねぶたのイラストが、画面下方に現れます＝写真。さらに、人物にカメラを向けると、頭の付近に花笠のイラストも出現します。また、三内丸山遺跡では、遺跡から出土した板状土偶やヒスイの大珠の画像が表示されます。

「#三内丸山遺跡」または「#新青森駅」のハッシュタグを付けて、両方のフレイムで写真を投稿した人には、新青森駅改札口で記念品が贈られます。詳しくは掲示しているポスターでご確認ください。

見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)・12月30日～1月1日
観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimariyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)
休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <http://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」(東口)約20分・300円、タクシー(南口)約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」(東口)約10分・300円、タクシー(南口)約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント



<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-hs.asn.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側にのQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。
〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

縄文と芸術 FB ページ Instagram

